令和７年度　静岡県「体験の風をおこそう」推進事業

オープンハウス 2025　事業報告書

令和７年 11 月１日（土）　　日帰り

１　目　　的

・『SDGs』をテーマに、国立中央青少年交流の家の活動プログラムや様々な体験の提供を通して、体験活動の重要性の普及と交流の家の周知を図る。

・地元団体の取組情報の発信と交流の機会とし、関係団体とのパートナーシップを推進し、地域とともにある施設を体現する。

２　特別協力

アークラ大サーカス実行委員会

３　後　　援

静岡県教育委員会、御殿場市、御殿場市教育委員会

４　協　　賛

一般社団法人玉穂報徳会、一般社団法人中畑愛郷会、一般社団法人印野郷土振興協会、
コンパスグループジャパン株式会社

５　協力（ブース出展団体）

ガールスカウト静岡県第 33 団、子育て支援団体はぐっと、静岡県立熱海高等学校、静岡県立沼津商業高等学校、御殿場おもちゃ病院、駿東ペタンククラブ、NPO 法人土に還る木森づくりの会、日本 DMC 株式会社、御殿場市文化協会華道連盟、茶道和交会所属裏千家宗富会、ブーブカフェ、御殿場ロータリークラブ、岳南建設株式会社、静岡県立御殿場高等学校創造ビジネス科、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地、NPO 法人みらい建設部、愛香庵らふ、絵本『ビーズのおともだち』、静岡県立田方農業高等学校、Dream Sweets Factory

６　来場者　1,594 名

７　事業内容

（１）各出展団体の体験ブース

20 団体が出展を行った。各団体が創意工夫を凝らし、来場者に様々な体験を提供していた。多くの団体から、「想像以上に来場者が多くて嬉しかった」「準備した商品が完売した」という声が聞かれ、来場者を楽しませることができた。高校生の出展は、日頃の探究活動の成果を発表する場として定着しており、出展する高校生にとっても重要なイベントとなっている。

（２）スタンプラリー（達成者 250 名）

来場者が楽しむイベントの一つとしてスタンプラリーを実施した。多くの来場者が積極的に参加したため、昼過ぎには用意した景品が無くなるほどであった。また、ゴールを研修館内に設置したことで、多くの来場者を研修館内に誘導することができた。

（3）富士のさと　プレイパーク（来場者　1日（土）330名　2日（日）176名）

プレイパーク（冒険あそび場）を交流の家主催で実施した。モルック、薪割り、火起こし体験、丸木のクラフト製作を事業日と、日曜日のアークラ大サーカスでの二日間提供し、500名を超える来場者があった。薪割りや火起こしに興味を持った子供たちが多く、何度も繰り返して楽しむ姿が印象的であったとともに、興味を示す大人も多くいた。

8　企画運営のポイント

・事前広報（チラシ、広報ごてんば、市役所サイネージ、出展団体のSNS広報など）を積極的に行い、来場者を増やすような取組を行った。

・研修館を装飾したり、富士ピロティでは音楽を流したりすることでお祭り感を出し、来場者がより楽しめるような雰囲気を作った。

・イベントの一つとして、また多くの来場者を研修館内に誘導する目的で、スタンプラリーを企画した。

・富士のさとプレイパークでは、交流の家が提供している「木育」の取り組みを広く知っていただけるようなプログラムを実施した。

・来場者が楽しめるように、可能な限り多くの団体に出展依頼を行った。また、団体の出展内容については普段の取り組みを広く知っていただく発表としつつ、できるだけ来場者が楽しめるような内容にしてもらうように依頼した。

9　参加者の声（事後アンケートより抜粋）

・子供が楽しめるものがたくさんあり、ありがたかったです。

・普段は入れないレストランを開放して食事ができたのはすごく良かったので、これからも続けてほしいと思いました。

10　成果と課題

（1）来場者アンケート結果

参加への満足度			
満足 92%	やや満足 8%	やや不満 0%	不満 0%

楽しかった、良かったと思った出展は何ですか。（回答の多かった出展）

スタンプラリー
富士のさと　プレイパーク
静岡県立御殿場高等学校　創造ビジネス科（木育ひろば）
静岡県立熱海高等学校（開発商品販売）
陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地（自衛隊車両搭乗体験）

（2）出展者アンケート結果

出展への満足度			
満足 47%	やや満足 47%	やや不満 6%	不満 0%

（3）成果と課題

○　昨年度比約1.5倍の来場者があった。また、初開催のスタンプラリーは多くの来場者が体験していた。これにより、研修館内への誘導することができた。

○　昨年度の反省を活かし、各担当間での打合せや出展団体との綿密な事前連絡により、大きなトラブルもなく終えることができた。

○　職員やボランティアの声掛けにより、来場者の多くを研修館に誘導することができた。

●　出展団体の募集広報を積極的に行うことで、出展団体を増やし、より来場者が楽しめるようにしたい。

●　来場者を研修館３階や富士ピロティへ誘導することは引き続き来年度の課題である。